

ひいおばあちゃんのすごいお米

鶴ヶ島市立新町小学校 三年
竹 谷 啓 人

ぼくは毎日、ひいおばあちゃんが作っているお米を食べて生きています。ぼくのひいおばあちゃんは今、九十才です。なくなってしまうたひいおじいちゃんといっしょにやく七十年間、お米を作りつづけてきた、さい強のひいおばあちゃんです。

ぼくは、お米がどうやって作られるのか、おばあちゃんに電話で聞いてみました。たねの事、いいなえや土を作る事、田うえの事、いねをかんりする事や、いねかりの事などを教えてもらいました。今までにないぐらいの長電話になりました。こんなにも長い電話になるくらいお米を作るにはたくさんのし事があるんだなと思いました。

さらに、今はちゃんとしたすごいきかいがたくさんあるけれど、むかしはぜんぶ手作ぎようでやっていたということも分かりました。それをひいおばあちゃんは長い間、つづけてきてくれました。ものすごいたいへんだったと思います。でも、みんなに元気でいてほしいからひいおばあちゃんはやめなかつたんだと思います。

ひいおばあちゃんの子どもたち、まごたち、ひまごたち、家族やしんせきみんなが、ひいおばあちゃんを作ったお米を毎日食べています。ひいおばあちゃんの田んぼはひいひいおばあちゃんとひいひいおじいちゃんも使っていた田んぼだと思います。もしかしたら、ごせんぞ様もずっと大切にしていたのかもしれない。みんながみんなのことを思ってお米を作っていたのだと思います。ぼくの家族はお米でつながってきたのだと思います。

今年の夏はひいおばあちゃんのとこりに会いに行けませんでした。もうすぐいねかりのときになります。ひいおばあちゃんの家に行つて、いねかりの事をおそわつてお手つだいをしたいです。おいしい新米を食べるのが、楽しみです。